

会議録

審議会等名	平成30年度第3回つくばみらい市国民健康保険運営協議会
開催日	平成31年2月14日(木)
開催場所	つくばみらい市役所 伊奈庁舎3階 会議室
出席者	出席委員 高木 寛房, 今川 英明, 古川 よし枝, 鈴木 美和子, 青木 一郎, 横張 雅彦, 岡本 善隆, 飯塚 伸泰 欠席委員 小菅 新一 事務局 中山保健福祉部長, 明都国保年金課長, 村下主査, 根本主査, 幕田保健師
議案	報告事項 ・平成31年度つくばみらい市国民健康保険特別会計予算について ・平成31年度国民健康保険の改正について
議案概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会 午後1時30分 明都課長</li> <li>・会長あいさつ 高木会長</li> <li>・会議録署名委員の指名 横張雅彦委員と 鈴木美和子委員</li> <li>・議案</li> </ul> <p>1) 平成31年度つくばみらい市国民健康保険特別会計予算について事務局より説明。</p> <p>&lt;質疑等&gt;</p> <p>古川委員：ひとりあたり増額をして、4,000万円の基金を切り崩すということであったが、30年度の補正の決算見込みをみると、基金は1億2,000万円繰り入れることになっているので、料金改定について厳しく検証する必要があるのではないかと。31年度の予算では、基金の積み立て9,000万円とのこと、何年間を見込んで、納付金の増額に備えるのか。保険税を多く見込んだ結果ではないか。その点はどのような風にみているのか。</p> <p>事務局：まず税率の見込については、試算の段階で、ひとりあたり422円調定額で増えるということになった。基金の繰入金1億2,000万円については、前年度の剰余金が2億円ほどあり、それを翌々年度まで積み立てなければならないということになっている。税率の改定による1億2,000万円ではなく、前年度の剰余金に対する積立とご理解いただきたい。また、30年度の4,000万円の基金の切り崩しについて</p>

	<p>は、県が示す標準収納率 91%で税率を見込んでいた。制度改正があり、収納率の低下も考慮していたが昨年度と同じくらいの 95%の収納率が見込めるため、約 4,000 万円の積み立てが不要となった。前回の協議でもあったが、市の納付金の増額が想定されており、今、税率を下げるのではなく、数年間は新制度を見極めてから検討したい。</p> <p>古川委員：先の見通しが分からないというが、何年まで将来を見越すのか。今回の予算は、昨年度から余裕があるように感じるが。市民の国保税が高いという声は真摯に受け止めてほしい。その点はどうか。</p> <p>事務局：平成 31 年度税率の検討を前回の協議会でも実施したが、納付金が下がったことによる剰余額は 31 年度の当初予算にあげた 9,000 万円の基金の積立てと見込んだもの。制度も始まったばかりなので数年様子をみて判断したい。</p> <p>古川委員：本当は財政的な支援も含め県の統一化が行なわれた。それが結局、大変なときのために貯めておくというのは、私は違うと思う。</p> <p>議長：(要望ということでまとめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議案 <ul style="list-style-type: none"> <li>2) 平成 31 年度国民健康保険の改正について事務局より説明。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt; 質疑等 &gt;</p> <p>古川委員：基礎課税額の限度額増額は何人の被保険者に影響が出るのか。所得は、対象になるのはいくらか。</p> <p>事務局：新たに限度額が超過する対象世帯数は 15 世帯。限度額があがったことによる税額の見込みは 410 万円ほど調停が見込まれている。所得に対しては各世帯で異なり、一概に算出していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回 平成 31 年度第 1 回の運営協議会を 7 月または 8 月開催予定</li> <li>・ 閉会 午後 2 時 5 分 明都課長</li> </ul>
<p>そ の 他</p>	<p>傍聴人 無</p>